

Contents

- 学部長メッセージ……………2
- 100号記念 特別寄稿
- 未来からの挑戦状……………4～7
- 先輩から将来を担う君たちに
- 2012年の就職状況と2013年の展望……8
- 就職活動体験記……………10～12
- 学科 ニュース……………13～17
- Spot News 40号館竣工……………17
- 連載／卒業生インタビュー……18～19
- (株)BSP代表取締役社長 執行役員 竹藤 浩樹さん
- 平成24年度表彰学生……………20
- CAMPUS NEWS……………22
- 平成25年度行事予定……………23

卒業生へ贈るお祝いメッセージ

平成24年度
学部卒業生ならびに大学院修了生の皆様
卒業・修了まことにおめでとうございます。
ご家族の皆様のおよろこびもひとしおのことと
心よりおよろこび申し上げます。



日本大学生産工学部 学部長 松井 勇

20世紀から21世紀という現代社会において国際化の進行とともに高度情報化の進行は、地球のあらゆる場所で起こる事象をメディアやインターネット等を通して即刻知ることができます。

学生・院生時代として過ごしたこの数年間で、決して忘れてはいけない、忘れてほしくないことがあります。

それは、3.11。
2011年3月11日午後2時46分、東日本一帯を襲った地震、津波、それに追い打ちをかけた原発事故の「巨大複合災害」は12都道府県に犠牲者をもたらし、特に岩手、宮城、福島各県は、大きな被害を受けました。それは世界の人々がテレビ等のあらゆるメディアでの報道で、同時に知るところでありました。

あの惨状を目の当たりにしたとき、大きな悲しみや深い喪失感の中で新しい歩みを一歩ずつ進めてゆかねばならない「巨大複合災害」に打ちのめされた被災者・被災地に私たちはどう向き合い、何をすべきかを一人ひとりが真剣に考えたことと思います。それは、人生の中でも希有で貴重な体験になったと思われます。

「何もかもはできなくても、何かはきっとできる」今こそ「役立つことがある」との思いで、ボランティア活動にはせ参じた学生たち。研究室で取り組んだ復興プロジェクトに積極的に参加し、協同した学生たち。被災地の復興まちづくり設計競技等で教員とともに成果を挙げた学生たち。それらを今も継続している学生たち。国や自治体の復興に関係する委員会等への参加と協力の要請を受け、取り組みをされている教員たち。加えて、学部では被災学生への入学金や授業料の免除等の支援をも実施しています。

何らかの想い、つぶやきを発し……。そして何らかの活動や行動に赴く……。

今こそ「人間の英知」が問われるときです。
決して忘れてはいけない、そして次世代へ語り継がなくてはならない出来事であると強く思います。

一度じっくりと、今ある自分の姿を見つめて下さい。
誰のお陰で今があるのでしょうか。お父さん、お母さん、そして家族。あなたを取り巻くすべての人に感謝するときではないでしょうか。

脳学者の茂木健一郎は『実際に人間が何かを創り上げるプロセスは共創(co-creation)であるというのは、経験的事実である。独創性を重んじる科学者や芸術家もディスカッションしたり、アイデアを交換したりすることなしでは、新しいものを生み出すことができない』と述べています。

特に、あなたに協力してくれた人。協同することについてくれた人。協働してくれた人。あなたを育ててくれた人。そして、あなたを支えてくれた人。

忘れてはいけません。あなたを取り巻くすべての人を。

生産工学部のキャンパスで過ごした数年間。
良い思い出をつくることができたでしょうか。一生付き合える友人と出会えたでしょうか。そして、見込

みある学生だと認められ、世の中に出ても恥ずかしくないようにと、先生方に厳しく指導をしていただけたでしょうか。生産工学部で学んだ知識や工学技術そして生産技術は、社会に出てから役に立つことが多いと思います。卒業するということ、修了するということは社会に対する最低の保証を大学が与えたことにほかなりません。

そして、言うまでもなく、「日本は工業立国です。だから生産工学部」の社会的な意義が存在しているといっても過言ではありません。その生産工学部を卒業・修了したことに誇りを持ってください。そして、生産工学部は、さらに研究室は、これから世界に羽ばたいていく皆さんのベースキャンプです。仕事の上で、困ったことや悩みがあれば、遠慮なく訪ねてきて下さい。母校を訪ねること。それは皆さんの特権でもあります。

ピアサポーターとして、後輩の面倒をみたこと。キャンパスジョブで働いたこと。サークル、クラブで汗をかけたこと。卒研や修論で皆とともに一生懸命頑張ったこと……。いろいろな思い出が詰まったキャンパス……。思い出や記憶を大切にすることは、将来自分にとって、もっともふさわしい居場所を見つけることにつながります。

このキャンパスそしてキャンパスでの思い出を忘れてはいけません。

卒業・修了後は、日本大学のスケールメリットを大いに活用して下さい。日本大学は123年の歴史があり、校友(卒業生)は106万人を超え、そして生産工学部は60年の歴史があり、校友(卒業生)は6万人を超えています。言うまでもなく世界中の国や地域、国内のすべての地域で活躍しています。今後はさまざまな校友(卒業生)とのつながりを持ち協同・協働を行い、日本大学の卒業生・修了生としての誇りと自信と勇気を持って大いに羽ばたき活躍されることを心より祈念して、「卒業生に贈るメッセージ」といたします。

卒業そして修了おめでとうございます。



習志野騎兵旅団



兵舎利用の授業講堂



授業風景



昭和32年竣工のプレハブA棟



昭和39年ごろの津田沼キャンパス全景



昭和40年ごろの正門前の店屋



昭和43年学生運動によるスト



昭和57年実務校舎竣工

未来からの挑戦状 先輩から将来を担う君たちに

『SPRING』100号を記念して、生産工学部を卒業され現在第一線で活躍されている各氏に、「困難が君を大きくする」と題して、ふだん聞けない失敗談や体験談と、そこから得た教訓を寄稿していただきました。また、「今取り組んでおきたい課題」もコメントしていただきました。

川崎重工業株式会社
航空宇宙カンパニー 営業本部
ヘリコプタ部長
瀧川 哲 氏

【PROFILE】

1963年生まれ。1988年生産工学研究科機械工学専攻修了。同年川崎重工業株式会社に入社。宇宙ステーション、CH-47輸送ヘリコプター、B 777旅客機の構造設計担当。1993年からOH-1観測ヘリコプターの営業担当。2001年、XP-1次期固定翼哨戒機／XC-2次期輸送機の営業担当。2011年、航空宇宙カンパニー 営業本部 ヘリコプタ部長就任。現在に至る。

「失敗ってしたかな?」と思い返していましたが、特になかったと感じてます。でも、日々、失敗、そのリカバリーの繰り返し。毎日のように、いろいろな問題について、答えを出して、また、それを修正して、いろいろと考え、相談して、うまくいかないことの繰り返し。これが当たり前であり、あまり、「失敗した!」と感じないようになっ

ているのかもしれません。

仕事は、そうそう正解ばかり出せるわけではないし、失敗というか、うまくやれないこと、工夫が要ることに対して、経験とか、知識とか、勘とかを使いながら、また、先輩、同僚、後輩、そして顧客等の意見を取り入れつつ、ズッコケながら進めて行くことかと思えます。

そんな毎日ですが、印象に残っていることがあります。営業に転籍して3~4年たったころだと思います。それなりに経験をして、営業としての自信もついて、少しは生意気を言えるころだったと思います。お客さんを怒らせてしまって、「もう、来るな!」と言われて、つらかったことがあります。

営業は、お客さんの近くにいる、お客さんの意に沿った方向に持っていくべく、社内の関係先と議論、調整などして答えを出して行く。でも、お客さんの方向と、会社の方向と、なかなかベクトルを合わせるのは難しい。会社としては、譲れない部分も

あって、それはなぜ譲れないのか、なぜ受け入れてほしいのかを、相手の立場も考えつつ、丁寧に、根気強く説明、納得をもらうようにすべきでしたが、それを中途半端に会社側の主張だけをして、あとは知りませんとしてしまいました。それでは、お客さんは怒りますね。

その後、そのお客さんとは、時間を経て関係は修復。お客さんからは、「何であのときは、あんな対応したの? それまでは、丁寧にいろいろとフォローしてくれていたのに...」と言われ、ハッと思いました。どのような状況であっても、粘り強く、相手の思いも感じながら丁寧に対応すべきだと。

この時の感覚が、今でも仕事の進め方の根幹を成していると感じています。

学生であっても、いろいろと解決すべきことがあると思います。それをいかに工夫して解いたかと言う経験が、社会人となって仕事をする上でも、見えない自信となると思います。

を数十枚単位で不良処分としてしまったのは苦い思い出だ。

膜厚安定化のきっかけは、製造条件表にスピンコートの条件を敢えて明示せず、膜厚測定結果を即時に製造条件にフィードバックするシステムを開発できたことだ。予算上、社内の情報システムグループにも頼めず、自前で一からプログラムを書いた。学生時代に学んだBASIC言語の知識が役立った。

当時作成したシステムは、少しずつ進化を続けながら今も製造現場に生かされている。予算の都合もあったが自分でプログラムを組んだことで、どんな管理をし、どんな使い勝手にしたいか、エンジニアとしてのイメージや要望を端的に表現し、具現化することができた。プログラミング自体は学生時代に得たことのごく一部で、学ん

のコイルは、最小線幅が10 μ mを下回る。この部品は、フェライトのウェハ上に、およそ10 μ mの太さの銅スパイラルを精緻に4層積み重ねた構造によって世界最小サイズを実現し、某有名スマホ等に搭載されて世界中で利用されている。

入社2年目の時、私は、フォト工程のエンジニアとしてCMFの製造工程立ち上げメンバーになるよう命じられた。フォト工程で担当したのは、蚊取り線香のようにスパイラル状に作成するコイルとコイルの間に、一定の膜厚にポリイミドをスピンコートすることだった。コーターは古く故障しがちだし、フォトプロセスは一から勉強する必要があり、開発担当者から提示された製造条件は、ざっくりし過ぎていて、要求される膜厚の寸法公差は±2 μ mと厳しいものだ。当初膜厚は安定せず、ウェハ

TDK-EPC株式会社
マグネティクスビジネスグループ
薄膜プロセス部 薄膜デバイス部
製造1係製造技術担当
有村 唯史 氏

【PROFILE】

1976年生まれ。千葉県出身。2002年生産工学研究科電気工学専攻修了。2002年TDK株式会社に入社。HDDヘッドの集積工程に携わる。2004年フォトリソグラフィ担当のエンジニアとしてHDDヘッドの技術に応用した超小型 薄膜受動部品の製造プロセス構築に尽力。現在に至る。趣味は観劇。

HDDヘッドの製造プロセスを応用した超小型の電子部品を製造する甲府工場、そのクリーンルームが私の職場だ。フォトリソグラフィ技術と、緻密にコントロールされた鍍金技術を駆使して製造される携帯機器向けコンモンモードフィルタ(CMF)

だことの中では支流に近いが、あらためて無駄な講義はひとつもなかったと、学生時代の恩師に感謝申し上げたい。

社会人11年目を迎えるにあたり思うのは、「日本に製造業を残せるか」というこ

鉄建建設株式会社
東京支店土木第二部長
猪塚 武志 氏

【PROFILE】

1964年生まれ。愛知県出身。1987年生産工学部土木工学科卒業。同年鉄建建設株式会社入社。名古屋支店、北関東支店で現場業務。2008年より担当部長として本社土木本部、九州支店、東京支店にて現場総括管理。趣味は車。

私が生産工学部を卒業した1987年は、国鉄が民営化されるなど世の中の仕組みが変わり、企業間競争が激化する時代でした。このような中、「現場でものづくりに取り組み、いつかは現場の所長になりたい」という思いで鉄建建設に入社しました。

本社において全国の土木工事現場を指導・支援する立場にあった入社21年目、台湾のシールド工事現場において3台のシールド機が掘進できない現場に遭遇しました。掘削にあたってのシールド機の推進方法は正しいはずであるが稼働しないのです。国内で同様の地質を扱った経

とだ。派遣労働の問題など日本人の働き方が大きく変わっていく中、知恵と工夫を凝らすことにより、個々人の生産性をいかに高められるかが私のような製造技術に携わる者の使命だ。当社のような部品業

験をもとに現地スタッフを指導するものの、通訳を介してでは詳細な意図が伝えられず、もどかしい日々が続きました。通訳は技術者ではないため、微妙なニュアンスが伝わらないのではと考え、言葉だけでなく中国語圏ですので漢字も使い指示内容を表現するようにしたところ、現地スタッフは理解を示すようになりました。

このような悪戦苦闘を繰り返し、なんとか3台のシールド機が順調に稼働を開始したという経験をしました。

社会人になると困難な状況に遭遇することが多々あります。そのような中で困難を克服し「絶対に何とかしてやる!」という熱い気持ち、すなわち「熱意」を持続させることが大切です。

私がこれまで経験した困難や失敗を乗り越えられた源は「熱意」であり、「熱意」を持って自ら行動することによりさまざまな経験を積み重ね社会人として成長できたと自負しています。

教訓になるような失敗談は特にないで、『明日へ取り組むべき課題』に真正面から受けて立つにはどのような準備が必要か? に関して書きたいと思います。

建築/インテリアの設計、工業製品のデザイン、商品開発コンサルタントの仕事を35年ほど行っています。われわれの職業は、問題解決の視点(最善の結果を導くためにどのようにしたらよいか)と問題発見の視点(皆が気がついていないことを発見して新しいことを提案する)を持つことが求められます。そのためどのようなことを考えながら仕事を行ってきたかを書き出してみました。

振り返ってみると、20~30代にこの

界にあつては、小型・高性能はもはや当たり前で、デリバリーも含めどう作りやすい仕組みを作るかがエンジニアの腕の見せどころなのだ。

鉄建建設株式会社
代表取締役副社長 宇都宮 守 氏

1968年生産工学部経営工学科土木専攻修了
(現・生産工学部土木工学科)

【今取り組んでおきたいこと】

生産工学部OBの猪塚君は、バイタリティーにあふれ常に前向きに行動し着実に成果を挙げ、私も先輩として誇らしく思っています。

さて、猪塚君の言う「熱意」とは、誰もが直面する困難を克服する原動力です。たとえばスポーツで「優勝する」との目標を立て、あらゆる厳しいトレーニング等を克服する力です。常に目標を掲げ、その目標に向けて邁進しなければ「熱意」も失われてしまいます。大学生活においても何か目標を立て熱意を持って困難に挑戦してください。

また、社会人になるとさまざまな人と接し、多くのことを人から学び仕事の成果に結び付けなければなりません。今のうちに、多くの人と素直な気持ちで接触し、多様なコミュニケーションの術を養ってください。

学生時代のさまざまな経験を通じて人間性を磨き社会人の扉を開かれることを期待しています。

ような意識を持っていたことが未来を決めたようです。これからの皆さんの未来への準備の参考になればと思います。

バランスのとれた社会の一員であるために、家族や友人との関係を大切にしてください。良いものをたくさん見ること、体験することを心がけましょう。健康生活をしてください。知識や知恵を追求すること、考えることの自由を放棄しないようにしましょう。日常を真剣に生きているかを時々思い出し、個人の活動の結果や新鮮な考えを互いに影響し合おうとしているか、何をしなければならないのか、何ができるのか、VISIONを共通に持っていきたいと思います。



平成 4 年 創 設 40 周 年 記 念 式 典



平成 11 年ケント州立大学と学部提携



平成 13 年ハイテク・リサーチ・センター竣工



平成 24 年 60 周 年 記 念 棟（39 号 館） 竣 工

創設60周年記念式典



記念式典で挨拶する松井勇生産工学部長



日本大学総長 大塚吉兵衛

創設60周年記念祝賀会



祝賀会風景



東邦大学理学部長・高橋正氏の来賓祝辞

デザインすることで社会が変わってしまうこともあるのを認識して下さい。デザインしないことが最良の選択肢の場合もあります。未来に対して保守的ではなく、独自の、新しい、積極的な、熱意を持って考え抜くことをしたいと思います。右手のデザイン（社会のベースをつくり出す地道

な活動）と左手のデザイン（社会に対して提案、問題提議を行う活動）の2つをきちんと自覚して自分たちをコントロールします。時代の空気をデザインに反映したいと思います。歴史を貫くことを意識しましょう。なぜこのような結果になったのかを自分で理解、把握してください。すべて

のことは理由があると考えてください。きちんと説明できるように自分の中を突き詰めてゆく姿勢を持ってください。ほかに選択肢はないのか、もっと良い解決方法はないのか、最後まで可能性を考えるようにしたいと思います。

株式会社分析センター

執行役員 第二技術研究所所長

川本 範之 氏

【PROFILE】

1966 年生まれ。1988 年生産工学部工業化学科（現・応用分子化学科）卒業。同年株式会社分析センターに入社。有機材料分析、法科学調査業務に従事。現在、執行役員 第二技術研究所所長

私が所属する「株式会社分析センター」は、化学分析・調査等を行い、技術情報を提供するサービス会社です。取り扱う分野は主に3つで、環境保全にかかわる業務、工業製品の品質管理にかかわる業務、事故原因の究明にかかわる業務になります。設立は昭和42年と業界の中では老舗ですので、公官庁、裁判所、警察署、重工業・機器メーカー、損害保険会社などの幅広いお客様から長年ご愛顧いただいています。

ところで、学生時代の私はといいますと、部活動とアルバイトが中心の生活で、決し

て優等生ではありませんでした。それでも、4年時に恩師から助言をいただいてからは勉学にも勤しみ、化学にかかわる仕事を希望して、現在の会社に就職しました。

そのような私が入社3年目に体験した失敗談があります。とあるメーカーからの依頼で、高分子機能性材料の仕事を行ったときです。お客様は弊社の営業マンに「高分子の末端にある官能基を知りたい」と注文したのですが、それを私に伝達し忘れました。私も営業マンからの話がすべてであろうと思い込み、分析結果を報告したところ、「注文した内容と違う!」とのクレームを受けました。その後、お客様、営業マン、私の3人で「言った!」「言わない!」の論争になり、あやうく取引停止になる寸前で双方の上司に仲介していただいて丸くおさまった次第です。

そのときの私は「技術系の大学を出ているのだから、ひたすらに分析を行うのが自

分に与えられた仕事だ」と考えていました。しかし、どのような仕事でもお客様が意図する目的があって発生しているので、その意図にくみする内容でなければ、いかに正確な技術力をもって仕事を完遂してもクレームになることを実感しました。そして、トラブルを防ぐためには、相手の立場に立って目的遂行の方策を検討し、それを事前に相手へ提案することが大事だと学びました。そのためには、仕事に関連した知識の蓄積も重要ですが、自分の提案内容を相手に正しく伝えるスキルも大切なことだと考えます。何か難しそうに思われがちですが、何ごとにも好奇心と探究心を旺盛にして、忍耐強く挑戦する行動力があれば、自然に身に付くはず。特に、学生時代では公的な場で目上の人と接する機会を増やすことがコミュニケーション力と人脈形成に役立つと思います。是非、実践してみてください。

多くの気づきを得ることができ、新たな自分、充実した人生を送っています。

私はガンという人生最大の問題を抱えたとき、手術を選ぶべきかしばらく葛藤しました。しかしガンを作ったのは自分自身であり、その原因を取り除くのは医者ではなく自分の問題だと気付きました。問題から逃げずに正面からガンと向き合い、解決に全力を尽くしました。

ガンが治癒する期日を決めました。その日までに自分は必ず治ると強く信念し、毎日治っている自分を鮮明に想い描きました。この誌面だけでは自助療法の具体的な内容について記述できませんが、ライフスタイルまで一変し努力を重ね凡事徹底しました。因みに自助療法でガンを自然治癒したガン

患者は全国に約300人以上いると言われています。私が特別な例ではありません。

これから社会へ巣立っていく後輩諸君にアドバイスしたいことは、問題が起きたときこそ成長のチャンスと捉え、ひるまず逃げず正面から解決に取り組んでいただきたいということです。問題を乗り越えてこそ、諸君は成長するのですから。

株式会社 東京技術計算コンサルタント

取締役副社長 倉川 清志 氏

【PROFILE】

1959 年生まれ。東京都出身。1982 年生産工学部数理工学科卒業。同年株式会社東京技術計算コンサルタント入社。プログラマ、SE から平成2年取締役、平成13年取締役副社長に就任。現在に至る。2007 年より日本大学非常勤講師。趣味は三味線、囲碁など。

【就職活動中の後輩（あなた）へ】

「かわいい子には旅をさせよ」「若いころの苦労は買ってでもしろ」とはよく言うが、旅をさせられた子供や苦労を背負い込んだ若者はたまったものじゃない。

案をして結果を出し続けられる人は数万人に一人ぐらいいるとは思いますが、自分がその人だと期待するような人は多分その人ではないだろう。

どっちみち壁はやってくるなら、その壁とどう向き合うか?「壁」を壁と思うか、チャンスと思うか。禅問答のようにも聞えるかもしれないが、「壁」ってほんとに「その人にとっての…」がつくんですよ。あなたにとっての「壁」は、友達にとって「壁」じゃない。私にとっての壁は…「派遣」でした。

私が30年前に入社してしばらくしたころ、マスコミで話題になっていたのはソフト会社の「派遣」でした。

【今取り組んでおきたいこと】

今や激動・激変の時代、企業にとって時代の変化はチャンスにもなれば、脅威にもなります。例えば来る超高齢社会をビジネスチャンスと捉えたとき、新事業や新商品開発の機会となる企業は少なくないでしょう。つまりこれからは、社会人として絶えず時代の変化を読み取れる力を身に

入社し、教育もそこそこに、企業に技術者として「派遣」させ、そこで教育させる。派遣された技術者はその待遇に不満をもって「大量退社!」という記事が紙面に踊ってました。

幸い、我が社（ttc）には派遣がなくてよかったなと思っていた入社3年目の冬、私に「派遣」の命が下った。えっ、「派遣がない会社じゃなかったのか」…なのに。

今まで会社に出社し、上司の指示のもと、自分の机で、自分で時間管理し残業も楽しんで、気楽(?)に仕事をしていたのに……。

行くのは私一人。新しい分野の仕事。不安9割、期待1割くらい。

客先に行くと、机はなく、座る場所はマシンルームの端末の前だけ。これには参った。しかし、そこだけが自分の仕事場なので、とにかく、黙々と仕事をこなした。仕事がだんだんと忙しくなり、一人、二人とメンバーが増えていき、だんだんとチームとして仕事をするようになった。そのうちに、自然とリーダーっぽい仕事をするようになっていった。

一技術者から、チームのスケジュールや品質に責任を持たされるようになり、必死でプロジェクト管理やマネジメントを勉強しました。とにかく本を読んでは実践、セミナーに行っては実践、壁にぶち当たれば

つける必要があります。それには高い感性和世界観が求められます。国、業界、業種、職種の枠を超えて学んでください。自分の世界にとどまることなく、目の付け方から発想の仕方まで広く学んで、我が日本大学生産工学部の卒業生として各企業で活躍し、日本再生に貢献されることを期待してやみません。

また勉強、の繰り返し。セミナーや本でお金も使ったが、とにかく集中していて楽しかった。

あのときの仕事やお客様やメンバーに育てられました。あれほどいやだった「派遣」でしたが…今思うと、あの時期は貴重な財産になりました。

はじめは、「一人出向」でしたが、それを受け入れ、与えられた場で百パーセント仕事を楽しむ。残業、徹夜は本社にいるとき以上の激務でしたが、それすら受け入れ、楽しむことができれば、自ずと結果はついてきます。今考えると、「出向」に私を選ぶとは当時の会社も随分勇気があったもんだと思います。「出向」に選ばれたことに本当に、「感謝」です。

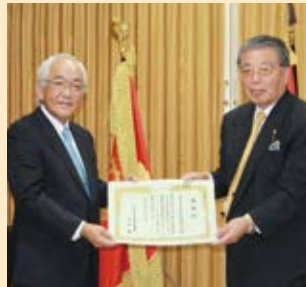
どんな仕事が目の前に現れるか分からない。少なくとも自分よりも多くの経験をしている上司や会社が判断した結論にあれこれ言うより「受け入れて百パーセントやるべきことをやる」ことをおすすめします。自分で自分に限界づけしないでください。

キャリアは漫然と過ぎた時間ではありません。ぶち当たって乗り越えた壁の数が、キャリアです。自ら壁を求めないでも「あなたにとっての壁」は必ず目の前にやってきます。

あなたをキャリアアップさせるために……。

生産工学部校友会から創設60周年記念事業募金に対し寄付をいただきました。

昨年(2012年)生産工学部は、創設60周年を迎え、数々の記念事業を行いました。その記念事業に対し、生産工学部校友会から2,000万円の寄付をいただきました。寄付金贈呈式は、2012年9月20日学部長室で行われ、学部からは松井学部長から感謝状が贈られました。



2012年の就職状況と2013年の展望

2012年度の就職をめぐる状況

「超就職氷河期」、この言葉は2010年の流行語大賞にノミネートされた造語です。今を遡ること10数年、1999年の新規学卒者(大学)の求人倍率(求人数/就職希望者数)は、リクルート調査によると0.99倍と1.0倍を割り込み、就職希望者に求人数が達しなかった状態を「就職氷河期」と呼びましたが、2008年秋のリーマンショックを境に求人倍率が低下し続けたことから、新たな造語が誕生したわけ

です。求人倍率は2008年2.14倍⇒2009年1.62倍⇒2010年1.28倍、2011年⇒1.23倍と、年々低下し続けてきましたが、2012年は若干持ち直し1.27となっています。この数値は全国の民間企業の求人数が前年に比べ1.1%減(6,000人)であったのに対して、学生の就職希望者が4.5%減(1万人)となったことによるもので、決して就職状況が好転したわけではありません。

同時に厚生労働省調査によれば就職活動が終了する10月時点の内定率も、2009年62.5%⇒2010年は57.6%、そして2011年は若干持ち直したものの59.9%と過去2番目の低さとなりました。本年は63.1%と回復の兆しが見えてきましたが、それでも先に触れた「就職氷河期」の同時期

の最低ラインの60%を若干上回った程度です。

このように全国の求人倍率が1.27倍であるにもかかわらず、なぜ内定率が低いのか、その原因は「企業規模(大きさ)によってその倍率が異なる」ため、すなわち1,000～4,999人の規模では倍率が0.81倍(5,000人以上は0.60倍)であるのに対して、300～999人では0.93倍、さらに300人未満の中小企業は3.27倍と高い状況になっています。

それとは逆に就職希望者の選択は有名大企業に集中し、さらに前年の2011年3月卒業者のうち約6万人が未就職者であり、この人たちが2012年の就職戦線に加わっていることが、大きなギャップを生み「超就職氷河期」が続いているわけです。

学部・学科の就職率

そうした中で生産工学部もかなり厳しい状況にありましたが、2012年3月末の就職率は学部全体で90.3%(うち女子は87.1%)、大学院は97.1%と健闘しています。これを学科別にみると「機械工学科93.9%」、「電気電子工学科90.0%」、「土木工学科99.3%」、「建築工学科94.1%」、「応用分子化学科78.2%」、「マネジメント工学科78.8%」、「数理情報工学科97.1%」となっており、学科により

就職率のバラツキがありますが、これは各学科の専門的な知識や技術が生かせる業種・業態の求人状況が景気によって変化するため、と考えられます。

就職企業の選択とキャリアの展望

厚生労働省によれば、大学卒業後の3年間で35%の人が離職していきますが、自らが希望した企業に就職でき、同時に適合した仕事に就いた場合には、離職しないという、同省の研究結果があります。

生産工学部では、将来のキャリアが展望でき、的確なキャリア選択(就職)が可能よう2年生からキャリアデザインやインターンシップなどのキャリア形成科目を設置していますが、そうした学習がキャリア形成に効果があるかの検証を実施しています。2011年12月時点での就職決定者(751名)のアンケート結果では、生産実習(インターンシップ)が最も就職活動に役立った(71.8%)こと、また、86.4%の人がほぼ希望通りの企業に就職できたと回答しており、目前の就職という事柄のみにとらわれず、将来に向けて的確なキャリア形成に関する学習を行うことが重要です。

2013年の就職状況の展望

残念ながら就職状況が好転する材料は乏しいことが予見されます。それ

は、以下に述べるように、企業側(求人)の採用条件と就職を希望する学生(求職)の求める条件のバランスが崩壊し、大きなミスマッチが生じているためです。

①ヨーロッパを中心としたグローバルな金融不安が継続していることなどによる円高のため、日本企業の輸出が低調にとどまっている。
②さらに、尖閣列島の所有権をめぐる日中間の軋轢が顕在化し、それが中国の輸入を停滞化させ、日系企業の撤退と東南アジアにシフトする傾向が加速化し、結果として国内雇用が縮小していく。

③特に大企業の正規雇用者の厳選採用(将来の経営幹部要員としての正規社員雇用の絞り込み)と、大学卒業者の急増(20年間で進学率は2倍)による需給バランスの崩壊。

④就職(就社)意識の保守化傾向の進行と反対に、企業側はチャレンジングで元気な活力ある人材(グローバル人材)を求める採用要件とのギャップ。

などが確実に見通せます。この記事を読まれるころ、大多数の方々はこれからが就活の本番です。改めて自分発見と企業選択のポイントを申し上げます。

自己分析の5つのポイント

①自分にとって働く(労働)ことはどのような意味があるのか。
②どのような仕事をしたいのか、その仕事を成し遂げるだけの知識や能力があるか。
③その仕事を達成するための強い意志を持続けられるか。
④他人と比べ、自分の良いところ(長所)と、悪いところ(短所)を認識しているか。
⑤年齢や性などにかかわらず、いろいろな人と目標に向かって協働できるか。

企業研究の4つのポイント

①業種・業界・業態によって「求める人材像」が相違することを認識しているか。
②マスメディアに登場する企業(有名大企業)が良い企業とは限らない。ブランドにとらわれずに、独自の技術やアイデアを持つ企業(オンリーワン企業)を発見する。
③自己資本比率と経常利益率が高く、平均年齢が若い企業(借金が少なく、本業で儲けており、組織の活力があ

る企業)に注目する。

④特に自分の身の丈(能力のレベル、性格の適合、ヤル気・意志)に合った企業の選択を心がける。

企業の戦略立案に「最適解(ベストの解)」と「満足解(ベターの解)」という考え方があります。「氷河」に立ち向かい、「氷河」を切り裂いて前進(ベストを求め)するのか? それとも現実を直視し、「氷河」を避けながら進路を修正(ベターを追求)してゆくのか、これが大事な選択となります。この時に重要なことは、不確定なかつ信憑性に乏しい情報に左右されず、自らが確信をもった判断材料(経験、知識、情報、助言)で選択することです。

人によっては、長く遠い就活となるかもしれませんが、実は「本当の自分発見」と同時に「自分との闘い」でもあります。決して自分を見失わないよう頑張ってください。



機械工学専攻

山中 七皇海

(日野自動車㈱ 内定)

就職活動は、初めに自分の「できること」ではなく「やりたいこと」を定めることをしなければ、筋の通ったエントリーシート

ト(以下 ES)は書けないと思います。

私は、ある程度業種を絞っていたので、エントリーした会社は 10 社、さらに選考に進んだのは 6 社でした。初めは周りの人のエントリー数に対して少なく、心細く感じましたが、1 つ 1 つ丁寧に書くことができました。

ES は細かく書くことと文字数がオーバーします。見やすさだけでなく、面接で聞いてほしいことを箇条書きにすることや、キーワードを自己 PR に盛り込み簡潔に書くといいと思います。その中で面接者が気になったところは、詳しく聞かれますし、ある程度の質問を想定することができます。

面接の準備としては、さまざまな質問に合わせて ES に沿った内容で 2、3 分で話せるように整理しました。話す内容について、な

ぜそう思うのか、説得力を持たせるために自身の体験談と志望動機を含めて相手に説明、または答えるようにしました。考えたことを丸覚えする必要はありません。自分の考えなので、一度まとめただけで大筋は頭に入るので、あとはイメージトレーニングをすれば大丈夫だと思います。面接前は緊張するものの、イメージトレーニングすることで、面接が始まり話をしているうちに緊張がほぐれ、すらすらと言葉が出てくると思います。

私が一番話題に用いたのは、学外活動である公益社団法人自動車技術会学生自動車研究会に参加したことでした。話題だけでなく、その活動に参加している企業の方々や、自動車の研究をしている他大学の学生から客観的な面接のアドバイスをいただいたことが成功に結び付いた要因であると思います。

最後に、就活は“自分の今までやってきたことをアピールする”、“言いたいことをまとめておく”および“リラックスして面接を受ける”ことが大切です。これらができれば内定に近づけると思います。ぜひ「行ける会社」ではなく「行きたい会社」に就職できるように頑張ってください。

電気電子工学科

城山 裕希

(日本コムシス㈱ 内定)

私の就職活動期間は、12 月から内定通知をいただいた 5 月までの 6 か月間でした。私は、通信機器に興味があり通信事業を行っている会社を軸に活動を行いました。

まず、合同説明会に足を運び、どのような会社があるのかを知ることから始めました。そこで多くの社員さんが「B to B(企業間での取引)」という言葉を発していることに私は注目しました。この分野は一般利用者とかわることが少なく皆さんが知らない大きな会社がたくさんあります。

また、これと並行して筆記試験の対策とエントリーシート(ES)の対策を行って下さい。

筆記試験に関しては、会社によって形式が異なるため、できるだけ多くの問題を繰り返し行うしかありません。早い会社では 2 月下旬から始まりますが、1、2 月は学内試験や各企業の会社説明会が始まるため、早めの対策をとりましょう。

土木工学専攻

末廣 明寛

(東急建設㈱ 内定)

「就活とは自分を知り、人生を考える事」就職氷河期と言われる今でも、これに本気で取り組める人間は就活を必ず打開できる

と思います。

私は幼いころから、土木の現場に立つ父の背中を見て育ちました。父の指示で人が動き、ものが出来ていく、その風景をみて「私もこのような仕事がしたい」とゼネコンを志望しました。

就職活動は、期間としては 8 月から 4 月の 9 カ月、エントリーしたのは 4 社です。少し心細い気もしましたが、その分、適性検査対策・自己分析・企業研究を行っていたので、自信がありました。

私はまず大学院 1 年の 8 月から適性検査(SPI)の勉強を始めました。それから半年間、毎日少しずつ勉強し、3 冊の教本を 2 周ほど繰り返しました。その結果、スーパーゼネコンを含め適性検査で落ちることはありませんでした。ここで大切なのは、「適性検査は勉強すれば必ず合格する」ということです。本気で行きたい企業が見つかったとしても、その気持ちを伝える場までたどり着けないのは本当にもったいない。おそらく、勉強すれば点は取れるのにもかかわらず、それさえしない学生を企業側は求めているのだと思います。さらに、同時期より自己分析を始め、自分の長所・短所、どうい

筆記試験の対策も重要ですが、それ以上に重要なのが ES です。私の対策法は、自分の強みや弱みなどの要点を多く書き出し、最終的に文章にしていきました。面接では基本的に ES の内容から質問されるので、面接中に整理して話すことができると思います。ES の中には、志望動機や自己 PR を書くところがあります。志望動機は、「私の…な強みを生かし…したい」などと書いていくことも良いですが、その会社をなぜ選んだのかを他の会社と差別化して書いていくこと。自己 PR は、他の人にこれだけは絶対に負けないことなどを強くアピールして書いて下さい。

面接では、相手の質問に対して簡潔で分かりやすく話すことを心がけてください。ES の文章をそのまま暗記し話すことはお勧めしません。どうしても緊張すると思いますが、私は「楽しく会話をする場」と思い臨みました。そうすることで、緊張が和らぎ元氣良く笑顔で話せると思います。

就職活動中は不安がいっぱいだと思います。しかし、自分の未来の姿をしっかりとイメージし選考に臨めば、必ず合格します。皆さん、体調管理に気を配り、頑張ってください。

う仕事したい・したくない、自身の人生設計等をできるだけ具体的に紙に書いていきました。それに加え、他己分析として大学の友達・先輩・後輩・先生、さらにアルバイトの先輩・後輩に私のことを分析してもらいましたが、自分では気づかない長所・短所の指摘が多くあり、有意義なものになりました。中でもアルバイトの先輩から、社会人としての目線で指摘してもらえたのは特に参考になりました。

自己分析での気付きは、「自分を知ることとは最も難しい問題」ということです。しかし、就活において自己分析は、企業選定・ES・面接とすべてにつながる最重要項目です。適性検査と同じように、短期間で考えようとしても無意味であり、必ずどこかでつまずきます。じっくりと時間をかけて自分を知ってください。

ES・適性検査を通過すると、最後に面接です。面接は徹底した自己分析だけでなく、面接に対する「慣れ」と、会社に対する「熱意の表現力」が大切です。私の面接の 1 社目はスーパーゼネコンで、2 次面接の面接官は 8 人、その場の空気に圧倒され思っていることが言えず失敗しました。今ではそれより前にほかの企業で「面接慣れ」をしておくべきだったと後悔しています。

最後にこれだけは忘れないでください。内定がゴールではありません。社会人になってからがスタートなのです。そのスタートラインの景色を強くイメージしてください。それができれば、きっと悔いのない就職活動ができると思います。

建築工学科

岡元 翼

(鹿島建設㈱ 内定)

〈私の就活の流れ〉〈心がけていた就活五箇条〉〈鹿島を選んだ理由〉の大きく 3 つに分けて書きたいと思います。

私の就職活動はインターンシップ後の 10 月から始まりました。今思うと、SPI を早い段階から行っていたからこそ鹿島建設の SPI を通過出来たと思います。

その後はリクルーターの方や、研究室の先輩・同級生に ES の添削、面接練習を何度も行ってもらい、また専門知識テストの際は、ほかの研究室の方から参考書を貸していただき通過することができました。

たくさんの人の協力があったからこそ私の就活は成功したのだと感じます。もちろん私自身、相当頑張りました。

次に私自身が就職活動中に心がけていたことに一言添えて勝手に紹介します。

〈就活五箇条〉

其の一。胸を張り、凛々しい態度。(新入社員になった気分で歩く)

其の二。現場見学等、社員の方と接触があった後のメールは迅速

応用分子化学専攻

末松 有紀

(凸版印刷㈱ 内定)

今年度の就職活動は、企業研究や自己診断などの準備に充てる時間が多く、とても活動しやすい時間の流れだったと感じ

ます。本学部で公開していた就職活動に関する各セミナーは、就職活動の準備に役に立ちました。というのも、筆記試験の模擬テスト受験や、エントリーシートの添削をしてもらうことができ、学内だけで要点を押さえた対策を、効率良くとれたからです。その中でも、面接編が印象に残っています。このセミナーでは被験者として参加させていただき、同じように就職活動をしている大勢の人の前で面接をしたことは、私にとって非常に緊張するセミナーでした。しかし、その出来事を振り返ると、そこでの緊張を楽しむエネルギーに変えたことや、面接結果をセミナーに参加した人たちと共有し、すぐにフィードバックしたことで、実際の面接に活かしたと考えています。

マネジメント工学科

藤牧 沙矢香

(㈱三越伊勢丹システム・ソリューションズ 内定)

この年は 12 月から就職活動が始まり、例年とは違った日程で行われました。しかし、企業の選考は変わりなく、一番の変化は学生の企業を探す時間が短縮されたことです。早い企業では 2 月から選考が始まり、業界や企業が定まっていなかった私は、それまでに自分が望む企業を選択しなければなりませんでした。

私はこの短期決戦に備え、12 月までに「SPI の試験対策や自己分析を終了」、12 月と 1 月は「多くの企業に足を運び」、2 月は「適している、志望する企業や業界を決定」、3 月は「その企業に集中」というように、月毎の目標を設定しました。ここで大変だったことは、試験は SPI だけでなく企業によって多種多様であること。企業の採用方法をよく調べる必要がありました。

そして 3 月の試験や面接を通し、試験に落とされることで自分と合わない業界を判断し、最終的に IT 業界のシステムエンジニアが自分の考えと近いことを知り、絞り込みました。

に！(当日お礼は当たり前。遅くとも次の日)

其の三。テストセンターは数多くこなし、第一志望の会社の時に備えるべし！(テストセンターが早い他業種の会社をエントリーして問題に慣れておいた)

其の四。弱音はなるべく吐かない。(気持ちを切り替えて次に目を向ける)

其の五。先輩、友達、リクルーターの方、先生等々を巻き込んで就活を行う。(さまざまな意見・情報を聞けるし、競う相手がいるとやる気が出る)

最後に鹿島を選んだ理由についてです。

企業研究を進めると、建設業界大手 5 社の違いを見つけるのが難しいと思います。技術の差で目立ったものはあまりなく、相当深く調べないと相手はその道のプロなので通用しないと感じました。

私は最終的に社員の方の「人の魅力」というのを判断基準にしました。鹿島の社員の方は、学生相手でも真剣に話を聞いてくれて行動に移してくれる、人に熱い方が多いと感じます。

皆さんの就職活動がうまくいくように協力できることがあったら手伝いたいと思います。頑張ってください！

就職活動に関して、私は工業的に生かせる化学事業を世界に広める仕事に就きたいと考えていました。そのため、技術力があり、なおかつ技術営業職のある企業を軸として活動を行っていました。とくに本学部の OB、OG の方が就職されている企業に重点を置き、学内で行われた就職セミナーなどに積極的に参加しました。最終的に内定をいただいた会社も、このセミナーで出会った企業でした。

活動中に関しては、心がけていたことが 2 つあります。

履歴書や ES は、どの年代の方が見ても読みやすいように配慮し、心を込めて丁寧に書きました。また、面接時には聞かれたことを一方的に伝えるのではなく、面接をしてきている方も楽しめる、退屈しない話の展開を意識して挑みました。

私は、数多くの企業にエントリーすることよりも、興味のある事業を行っている企業を厳選し、そこに全力を注ぐことが大事だと考えています。悩んだり迷うこともあると思いますが、自分に正直になって行動し、頑張ってください。

面接は、どの企業が自分と合うかを判断するため、さまざまな部署の方や役職の方と会話できる良い機会でした。

- ①今まで自分が過去に経験した事柄と職業の関連性
- ②自分の将来像と企業の方向性
- ③自分の価値観と社員の方の雰囲気や風土

この 3 つを自分なりの面接を行う目的として決めました。

また、質問を積極的に行い、終了後にメモを取るなど必ず振り返る習慣をつけました。

そして 4 月前半には自分が志望する企業から内定をいただくことができました。

就職活動中は体力的にも精神的にも不安な時期です。しかし、私は目標や目的を明確に設定したことでメリハリができ、モチベーションの維持やスケジュールの管理が行いやすくなったと考えています。最後に、就職活動は自分を PR する以上に、自分を見てくださる方との出会いの場です。その方達との出会いが自分に自信を持たせ、成長につながります。一生に一回の貴重な機会、納得いくまでやりきってみてください。それが自分の糧となります。

数 理 情 報 工 学 専 攻

武田 智裕
(三菱電機インフォメーション
システムズ(株) 内定)

と思います。

1 度目の就職活動は学部3 年時です。

当時の私は「進学」と「就職」について悩んでいました。3 年の秋になっても決断ができず、1 0 月に「とりえす」就職活動の準備を始めました。

私の希望する企業の募集開始時期が他社に比べ遅かったため、ほかの SI 企業の説明会を数社受けていました。そのうちの 1 社が2 月に短期インターンシップを開催し、参加した私は同世代の就活生とともに密度の濃い3 日間を過ごしました。

他大学の方と会話していた際に、私が日々過ごしている研究室等で得られた経験が非常に恵まれたものであったと実感しました。この時、もう2 年大学院で学びたいと強く思い「進学」を決意しました。

私の就職活動は2 回あり
ました。この2 回の間に訪
れた未来への選択肢の中か
ら、なぜ現在の内定先を選
んだのかを述べていきたい

進学し、大学院1 年の夏、あるキッカケで私は映像制作会社にインターン
シップに行きました。映像制作の現場は毎日が刺激的で、2 週間の期間はあっ
という間に過ぎました。その後もアルバイトとして、撮影や収録に参加させ
てもらいました。

そして大学院1 年の冬、二度目の就職活動の時期がやってきました。ここ
でも私は悩んでいました。学部の頃から志望していた「SI 企業」と、「映像
制作会社」のどちらを選択するかです。どちらも魅力的な企業で、どちらを
選んでも満足感と後悔を感じる選択で、非常に迷いました。

私は企業を選ぶ方法として、自分が納得するための条件を複数設け、その
達成度によって選択することにした。その条件の1 つに「1 0 年後2 0
年後も続けていられるか」というものがあり、この自分の将来像がイメージ
できたのが選択の決め手となり、私は「SI 企業」を選択し現在に至ります。

最後になりますが、就職活動は人生の中で一番大きな選択を迫られる場だ
と思います。ぜひ皆さんは妥協せず、自分の納得のいく未来を選択してくだ
さい。

環 境 安 全 工 学 科

秋山 亜由美
(東日本旅客鉄道(株) 内定)

私が就職活動を本格的に
始めたのは、3 年生の12
月からでした。就職活動の
準備として実際には、10 月
ごろから学内の就職活動に
関する講演会や、SPI 対策講座に参加しました。12 月からは興味がある企
業にエントリーし、合同企業説明会にも参加しました。年が明けてからは自
己分析や企業研究を行い、エントリーシート(以下 ES)を作成しました。

企業の個別説明会には、2 月から4 月にかけて集中的に参加しました。
その後、ES 提出や筆記試験を経て面接という流れで選考が行われました。
さらに、OB 訪問を行い、先輩方から仕事のお話を伺い、就職活動のアド
バイスをいただきました。このような過程を経て、ゴールデンウィーク前に
JR 東日本から内々定をいただき、就職活動を終えました。

このような就職活動中に私が行った対策は次のようなものでした。

まず、自己分析と企業研究を行いました。自己分析ではこれまでの生活を
振り返り、企業研究では企業の基本的な情報から同業他社との違いなどを

私が就職活動を本格的に
始めたのは、3 年生の12
月からでした。就職活動の
準備として実際には、10 月
ごろから学内の就職活動に
関する講演会や、SPI 対策講座に参加しました。12 月からは興味がある企
業にエントリーし、合同企業説明会にも参加しました。年が明けてからは自
己分析や企業研究を行い、エントリーシート(以下 ES)を作成しました。

考え、これらをノートにまとめました。

一方、筆記試験対策を行い、学内の SPI 対策講座に参加すると同時に、
参考書を購入して問題に慣れ、より速く、正確に解けるような練習もしまし
た。

また、多くの受験生が気にする ES と面接対策については、自己分析と企
業研究を基に志望動機や自己 PR をまず明確にすることから始めました。

面接対策では、自己分析や企業研究、ES から面接問答集の作成をしまし
た。この場合、志望動機と自己 PR の2 つに分けて作成しました。面接の
練習を通して、新たな質問を加えたり、1 つの質問に対して深く考えたりし
ました。これらをまとめて自分なりに作成した面接問答集は最終的に20 枚
程度になりました。

本番の面接では、面接官の目を見ながら自然に話し、機械的に話さない
ように気を付けました。

就職活動は今後の自分の人生を左右します。中途半端な気持ちではなく、
真剣に向き合い、積極的に活動を行ってみてください。就職活動で得た経
験は決して無駄になりません。

無数の学生を見てきた人事の方々の心には響きません。是非、自分の言葉
で表現できるようにして下さい。

就活中には、本当にさまざまなことを経験しました。幾つもの企業を見て、
オープンデスクにもたくさん参加しました。今までの人生で一番有意義な時
間で、以前より数倍心が強くなり成長したと自信を持って言えます。

私が志望する企業から内定をいただくことができたのは、「強い芯を持っ
て夢を諦めなかったこと」と、「つらいとき支えてくれる人たちが近くにいた
こと」が大きいです。

これから就活生になる皆さんも夢を叶えてください。応援しています。

創 生 デ ザ イ ン 学 科

仲村 未央
(㈱シリウスライティングオフィス 内定)

就活は想像以上に長く、つらいものでした。

長くてつらいと言うのは、就活が終わらない＝簡単には内定をもらうこ
とができない、ということです。

就活は自分が頑張らないとどうにもならないのです。

長い理由として、選考フローがとても長いことも挙げられます。面接回
数が多く、その期間が長いと、緊張感がうまく保てないことや、気持ち
の浮き沈みが激しくなることもしばしばありました。たまには気持ちをリフ
レッシュするため、出かけたり趣味を楽しんだりすることも必須だと思います。

誰もがそうだと思いますが、初めは就活について知識はまったく皆無で
したので、就活ハウツー本のような書籍を買い勉強していました。確かに、
マナーやメールの出し方等は大変勉強になりました。しかし、就活を終え
た今思うことは、結局は「自分自身」はどういう人間なのかを知り、入社し
たら自分のこういった強みを活かしその会社をプラスにしていけるか、を自
分の言葉で言えないと採用にはたどり着けません。薄っぺらな言葉では、

"長いトンネル"。就職活
動とは、長いトンネルを抜
けることです。これから就
活をする皆さんには少々厳
しい言葉かもしれませんが、



機械工学科

■学部創設 60 周年記念ホームカミングデーを開催

ホームカミングデーを平成 24 年 11 月 24 日に 39 号館食
堂で開催し、卒業生約 80 名にお越し頂きました。受付の隣
に並べた数十年分の卒業アルバムの中から1 冊を手に取り、
久しぶりに再会した同窓生と談笑しながら懐かしそうにアルバ
ムを眺める卒業生の姿がとても印象的でした。

氏家教授(平成 24 年度学科主任)の挨拶では、産業の基
盤を支える機械を創造できる実践力を身に付けた人材を社会
に輩出するべく、卒業生の皆様にはさまざまな面でご支援い



ただきたいとの願いがありました。また、60 年分の膨大
な資料の中から機械工学科の主な変遷として、カリキュラ
ム、研究設備、研究室数、卒業生数(延べ 12,527 名)な
どを小幡准教授がパワーポイントにまとめて紹介しました。

和やかな雰囲気の中、あっという間に楽しい時間は過ぎ、
卒業生が帰り際に何度も校舎を振り返る姿を見ながら母校
の存在意義を新ためて実感した1 日でした。

■J-WAVE『MIRAIZ』に大平貴之さんと4 年生3 名が出演

平成 25 年 1 月 26 日に FM 番組 J-WAVE『MIRAIZ』
にプラネタリウムクリエイターの大平貴之さん(当学科 OB)
と4 年生の池山典孝君、鮎田茜さん、吉田なつみさんが出
演しました。夢を叶えた先輩を訪ねて「夢を諦めずに持ち
続ける心と努力
の大切さを生
きた言葉で学
ぶ」という番組
の趣旨通り、学
生たちは大平さ
んのプラネタリ
ウムに対する情
熱や信条にとて
も刺激を受け
たそうです。



電気電子工学科

■生産工学部創設 60 周年記念 電気電子工学科ホームカミングデー

桜泉祭会期中の平成 24 年 11 月 3 日(土)、教職員食堂で
電気電子工学科ホームカミングデーが開催されました。 当
日は卒業生 56 名、教員 15 名が参加しました。参加者のうち
22 名は当日参加でした。

卒業生は、昭和 37 年卒の方から平成 23 年卒まで、年
齢構成はバラエティに富んでいました。はじめに小井戸学部
次長(昭和 50 年大学院電気工学専攻修了)の乾杯があり、
続いて蒔田学科主任から 60 年の学科の歩みと変遷が紹介さ
れました。その後は参加された卒業生の方々は学当時の先
生方を交えた懇談や、お互いの旧交を温め、在学当時にタイ
ムスリップしたように懐かしい話に花が咲きました。



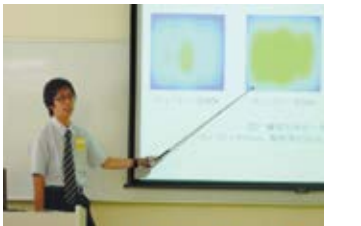
■鍛冶谷 智也 君「電気設備学会全国大会発表奨励賞」受賞

電気電子工学専攻2 年の鍛冶谷智也君は、平成 24 年
8 月 22 日～23 日に名古屋大学で開催された平成 24 年
度(第 30 回)電気設備学会全国大会において、発表奨励
賞を受賞しました。この賞は、発表ならびに研究の内容が
優秀であると認められた若手の研究者に対して贈られるも
のです。

対象論文は「LED を用
いた電飾看板発光面の主
観評価について」であり、
鍛冶谷君が所属する研究
室の内田暁准教授、また、
共同研究者である大谷義
彦非常勤講師(元 日本大学教授)や、山崎憲教授とともに
取り組んだ研究成果を取りまとめたも
のです。

研究成果は、日常生活に欠かすこと
のできない照明を対象としたものであ
り、昨今注目されている LED(発光ダイ
オード)を取り扱った大変意義のある
ものです。

この受賞をきっかけに、鍛冶谷君の
今後のさらなる活躍を期待します。



土木工学科

■ホームカミングデーで改めて認識した「日大土木」の結束力の強さ。

平成 24 年 11 月 2 日（金）に、土木工学科ではホームカミングデーとして「日本大学生産工学部創設 60 周年 土木工学科記念祝賀会」を 39 号館 2 階にて開催しました。参加者は、第一期生となる昭和 36 年度卒業生から平成 23 年度卒業生までを中心とした計 281 名（来賓：14 名、卒業生・教職員：267 名）となりました。



土木工学科主任である工藤勝輝教授の挨拶・近況報告を皮切りに、来賓祝辞（生産工学部次長・小井戸純司教授）、OB 教員挨拶（今野誠先生）、乾杯（昭和 41 年度卒業生校友会土木部会長・室木正春氏）と祝賀会は和やかに進み、その後、昭和 36 年度卒業生の横須賀靖氏の挨拶をはじめとして各年代代表 OB・OG によるご挨拶をいただきました。大締めとして、昭和 47 年度卒業生の島袋洋氏による手締めで名残惜しくも祝賀会は閉会しましたが、旧交を温めるとともに年代を超えた親睦を深められたと感じました。今回は平日の 18 時からという時間帯での開催ながらも、多数の校友に足を運んでいただいたことに、「日大土木」の結束力の強さを改めて認識いたしました。

土木工学科では今までに 1 万名以上の卒業生を輩出しています。このスケールメリットと結束力の強さは、国内の大学の中でもトップクラスの就職率の高さに発揮されています。また、校友の方々の温かいご支援・ご協力のもとで、生産土木が全国に先駆けて始めた生産実習は国内でも類を見ない規模の実践型教育として 50 年以上の歴史を誇っています。

今後も校友の方々とともに、教員一同、日本大学生産工学部土木工学科のより一層の発展に貢献すべく尽力しなければならないと感じる次第です。

建築工学科

■卒業生および同伴のご家族を合わせて約 50 名を迎え、創設 60 周年記念ホームカミングデーを開催。

生産工学部創設 60 周年記念として、建築工学科では平成 24 年 11 月 10 日（土）に 39 号館を主会場としてホームカミングデーを開催致しました。今回の開催にあたり参加の案内をした卒業生は、これから大学受験を迎えようとする子供さんを持たれる 40 歳代を中心としています。

参加人数は、卒業生および同伴のご家族を合わせて約 50 名、迎える教員は 14 名で行われました。

当日は 13 時より受付を始め、14 時までは新しい校舎等の様変わりをした津田沼キャンパスを各教員が案内をしました。卒業後に初めて来校された方もおり、当時との違いを肌で感じていただけたようです。

14 時から是在学生への先輩からの提言のため「今と昔、建築界で必要とされる人材」をテーマに、昭和 45 年卒業の橋本緑郎研究所教授と金田克治生産工学部校友会常任幹事による対談が行われました。対談では会場からの発言もあり、



現在の建築界で求められる人材は「自分から取り組むことができる」「自分で発想することができる」「どのような分野のことでも適切に判断できる」などの意見交換があり、「本質を見据えて、自ら考え行動できる人材」が必要であると結論づけられました。

生産工学部では創設当初から、即戦力として活躍できる教育・研究が実践され、また「日大人」は「頑張り」が特徴で、多くの先輩達が建築界で活躍していることなどが対談の中で語られていました。

15 時過ぎからは場所をカフェテリアに移し、学科主任・浅野教授、学部次長・小井戸教授の挨拶のあと、櫻田教授の乾杯の音頭で懇親会の開会です。年代の近い卒業生の参加とことから教員を囲んで卒業生同士のあたたかな談笑が繰り広げられていました。

応用分子化学科

■応用分子化学科ホームカミングデー報告

応用分子化学科ホームカミングデーは、平成 24 年 11 月 24 日（土）に開催され、およそ 480 名の同窓生と教員が集い、盛会となりました。

第 1 部は 13 時より 39 号館 6 階の Spring Hall で卒業生講演会が行われましたが、270 席用意された Spring Hall は開会前に満席となり、動画配信システムを利用して同フロアの



懇親会風景 1989 年卒の皆さん

150 名教室にも映像を映し出すほど多数の参加者がありました。

講演会に先立ち、同窓会実行委員会副委員長の日秋俊彦教授による同窓会の趣旨説明および学科・学部の近況報告が行われ、続いて「私にとってのマネジメント」というテーマで、化粧品および医薬品製造業の（株）トレミー会長の鈴木隆氏（1989 年卒）とアロマセラピスト養成学校とアロマの輸入販売会社を運営されている（株）宮田商店ナチュラルハーモニー代表の宮田靖子氏（1990 年卒）による講演がありました。

講演会終了後、15 時まで 39 号館の 4 階と 5 階の教室を使って研究室ごとの情報交換会が行われました。

第 2 部は会場を体育館に移し、同窓会実行委員会委員長である鈴木庸一氏の開会の辞、校友会応用分子化学部会長の守田隆司氏の挨拶、学科主任・山田康治教授の乾杯で懇親会が始まりました。

来賓として松井勇学部長、小井戸純司学部次長にもご参会いただきました。

懇親会では、長年にわたり当学科の生産実習および就職にご尽力いただいている企業 10 社に対して感謝状が贈呈されました。

閉会にあたって 1966 年卒業の町長治教授の挨拶があり、再会を約束して約 3 時間の懇親会の幕を閉じました。同窓会開催にあたり、多くの在学生在が協力してくれたことに感謝いたします。

マネジメント工学科

■マネジメント工学科は、平成 25 年度より 3 コース体制となり、新たに「フードマネジメントコース」が加わります

マネジメント工学科は、平成 25 年度からコース名称を変えた「ビジネスマネジメントコース」、「経営システムコース」の他、新たに第 3 の柱として「フードマネジメントコース」が加わります。

「ビジネスマネジメントコース」ではモノ、ヒト、カネ、情報、並びに流通、知財などに関する理論や技法を学習し、問題点を解決できるようなビジネスパーソンや経営者の育成をめざします。

「経営システムコース」では、組織が直面するさまざまな問題を解決するための方法論を実践的に学習し、企業における問題発見および解決能力を身に付けた人材の育成をめざします。

「フードマネジメントコース」では、フードビジネスを視野に問題解決の方法論を学習し、商品開発、供給体制、和食文化の海外市場展開などにおいて力を発揮できる人材の育成をめざします。



マネジメント工学科のコース体制

■マネジメント工学科ホームカミングデー開催

生産工学部創設 60 周年を記念した各種事業の一環として、マネジメント工学科ホームカミングデーを平成 24 年 12 月 15 日（土）15 時から 39 号館生産工学部 60 周年記念棟において開催いたしました。

今年で生産工学部創設以来 60 周年という永きにわたる歴史のなかで、マネジメント工学科では、工学部工業経営学科、理工学部工業経営学科、理工学部経営工学科、生産工学部管理工学科、生産工学部マネジメント工学科の卒業生にホームカミングデーの開催をご案内し、当日、約 100 名の卒業生にお集まりいただきました。

来賓として生産工学部松井勇学部長をお招きし、昭和 47 年卒業生であり、現在、生産工学部校友会マネジメント部会長の上田浩司氏の乾杯で盛大に行われました。

■柴 直樹教授 長期派遣研究員としてサリー大学から帰る

柴直樹教授は、平成 23 年 8 月から約 1 年間、長期派遣研究員としてロンドン郊外にあるサリー大学に派遣されました。社会シミュレーション研究センター長であるギルバート（N. Gilbert）教授の研究室に滞在し、シミュレーションモデルの正当性に関する研究を行い、帰国しました。この経験を基に、今後の研究が期待されます。



数理情報工学科

■数理情報工学科ホームカミングデーについて



生産工学部創設 60 周年記念の一環として、数理情報工学科のホームカミングデーが 11 月 4 日（日）に 60 周年記念棟（39 号館）2 階カフェテリアにて開催された。

当日の参加者は、生産工学部長・松井勇先生はじめ教職員（新旧）25 名、卒業生約 170 名の総勢約 200 名であった。

会は細川学科主任の挨拶に始まり、松井学部長より祝辞を賜り、学科の新旧教職員を紹介した後、三宅校友会数理部会長の乾杯により歓談に入った。

久しぶりに会う友達同士や先生との歓談で会場は和やかな雰囲気となり、しばらくしてから内田先生による近況インタビューなどで大いに盛り上がった。

最後に松田聖先生の閉会の挨拶に移り、惜しまれつつも一本締めで散会となった。

創生デザイン学科

■感慨もひとしお、初めての卒業生

創生デザイン学科は、平成 21 年 4 月に新学科として誕生し、本年 3 月に初めての卒業生を送り出すことができました。これまで共に学んできた卒業生が、責任ある大人として立派に成長し、おのおのの進路に向けて旅立ちました。その姿は、私たち教員に多くの喜びや感動を与えてくれました。

ここで、これまでの 4 年間を振り返ってみますと、入学して間もなく、大学での生活に早くなじめるように、新しい友達を

早くつくれるように、そして教員との親睦が図れるように 1 泊 2 日のオリエンテーションで箱根を訪れました。団体での宿泊行事ということもあり緊張もありましたが、夜を徹して新しい友達と語り合っていた積極的な姿勢がとても懐かしく思い出されます。また、これから学科で学ぶことの一端を予感させるかのように、箱根彫刻の森美術館にて多くの著名な作家の作品に触れましたが、あいにくの雨にもかかわらず、作品に向き合う学生の眼差しは真剣でとても印象的でした。

平成 24 年 11 月の桜泉祭では、学生が協力して製作した学科神輿を担ぎ、大久保商店街を練り歩き、桜泉祭を盛り上げることに協力できました。そして、平成 25 年 2 月

23、24 日に卒業研究成果報告展示会を行い、自分たちの思いを込め 1 年かけて制作してきた作品を、学内外の多くの方々に観ていただくことができました。そして、ご来場の方々に喜びや感動をたくさん与え、また、暖かい言葉をたくさん頂き、大盛況のうちに終わることができました。これら思い出を胸に、新社会人として頑張っていただけることを願っております。



環境安全工学科

■初めての卒業生について

平成 20 年 4 月 1 日に第 1 期生 164 名を迎え入れた環境安全工学科は完成年度を迎え、現在 4 年生 148 名、3 年生 111 名、2 年生 130 名、1 年生 149 名、合計 538 名の学生が在籍している。

今年度、1 期生である 4 年生のうち 136 名が卒業研究に着手しており、ほとんどが第 1 回卒業生ということになる。

さて、当学科における卒業研究に関して、特徴を述べようと思う。当学科は学問分野が機械工学、土木工学および応用化学など広範囲にわたる学際複合連合体であり、これが大きな財産となっている。しかし、学問の多様性があるうえでの障害がないとはいえない。当学科のほとんどの教員が、専門ごとの考え方、あるいは既存学科で培ってきた方法との違いによる戸惑いを感じている。研究室が既存学科の建物にあり離れていることもあり、当学科では卒業研究を遂行させ、評価を行うために、まずは教員同士の相互理解が不可欠であった。そこで平成 24 年 8 月 3 日に研究スタイルの相違を含め、学生同士、学生と教員および教員間の相互理解を



目的の 1 つとして、卒業研究中間発表会をポスター発表形式にて開催した。中間発表会では、専門分野や領域が多岐にわたっているにもかかわらず、活発な議論が行われ、学生同士はもちろんのこと教員間でも相互理解が図れることが確認できた。これを生かして、平成 25 年 2 月 15 日に第 1 回卒業研究発表審査会を開催した。

4 年生の就職状況は、学問分野が学際複合であるため、多業種に分散しているが、就職率も学部平均並みの 82% であり、まずは一安心できる状況である。また、大学院進学者は機械工学、土木工学、応用分子化学の各専攻に 17 名が希望あるいは決定している（平成 25 年 2 月 15 日現在）。環境安全工学科の将来は、一期生の活躍にかかっているが、卒業後も教員全員が一丸となってバックアップしていく所存である。

Spot News

環境安全工学科、創生デザイン学科の拠点棟 40 号館竣工

昨年の 39 号館に続き、生産工学部創設 60 周年記念棟 40 号館が、今年 2 月に竣工しました。

当館は、既存の専門 7 学科を横断する分野として、社会の要請に応じて新設された環境安全工学科、創生デザイン学科の拠点となる棟で、幸い今年第一期生が卒業する前に竣工できました。

延床面積 9,570.05m² の 7 階建て。研究室、演習室、大小実験室や卒研ゼミ室を配するとともに、学生のコミュニケーション能力を高める目的から多様なコミュニティスペースも多数設けています。



2 階に集約されている事務スペースの一部



環境安全工学実験室



コミュニケーションスペース



株式会社ビーエスピー 代表取締役社長 執行役員 竹藤 浩樹 さん

自分たちがつくり、
ぴかぴかに磨いた製品が
デファクトになって……。
私もそんな状況に
あこがれているんです。

生産工学部は、学生が中心のキャンパスをめざし、教職員はもちろんのこと多くの方たちがさまざまなかたちで学生をバックアップしています。なかでも一段と心強いサポートをしてくださる卒業生の方々を紹介するのがこのコーナーです。今回は株式会社ビーエスピー代表取締役社長執行役員の竹藤浩樹さんにご登場いただきました。

■学生時代に身につけたのは、自分で考え、自分で判断する習慣

数理工学科（現数理情報工学科）に入ったのは数学が好きだったから。パズルを解くように答えを出すのが楽しくて、数学の先生になろうというぐらいの気持ちでした。しかし、いざ数理工学科に

入ってみると、そういう数学は中学、高校まで。大学の数学は目的じゃなくて手段でした。数学を使って何かをやるという話になってくると難しくて（笑）。
運良く拾っていただいた大澤研究室に入り、台風の発生と気象の分析なんているのを、コンピューターを使ってやりましたが、ほとんど記憶に残っていませんね（笑）。

そんなわけで、とても在校生の皆さんにお話できるような学生時代ではありませんでした（笑）。
しかし、学生時代が無駄な時間だったかという、そんなことはありません。高校までは、当然ながら親に言われて、遅刻もしなければ休みもせずに学校に通いました。でも大学に入ると一人暮らし。学校を休んでも怒る親はいません。とはいえ行かなければ大学に入った意味がない。当時仕送りは5～6万円でしたから、アルバイトも欠かせない。数ある選択肢の中から何をすべきか、自分で考え、自分が判断し、自分で選ぶわけです。そんなことを学生時代に身につけました。

■会社では新人だってプロ。何よりも一生懸命取り組むことが大事

就職も、われわれのときは内定が一人10社とか当たり前の時代で、みんなガツガツしていませんでした。私が就活を始めたのも4年生の9月ぐらいでした。訪問先で「履歴書ください」って言われ、その日に履歴書を出さなきゃいけないなんて思っていないから「写真を撮ってきてません」と答えると、「分かりました。いいです、いいです」って。5分間ぐらいの面接で採用されました。それが今の会社です（笑）。
今考えると、どの会社でも良かったんだと思いますよ。大事なことは、どんな会社であれ、どんな業種であれ、まずは一生懸命やってみることです。
学生時代と違って、会社というのは新人だろうがなんだろうがプロとみなして給料を払っているわけですから、真剣度が違います。私も、どこかでスイッチが入って、一生懸命やりました。やった結果は、褒められるか怒られるか。評価されれば給料が増えていく。それで毎月給料もらって、どんどんステップアップしていくと、その仕事が自分に向いているんじゃないかと勘違いする（笑）。勘違いでもなんでも自信がつけばほかのことにも挑戦し始め、いいスパイラルに入っていく。そうすると、ますます仕事が面白くなっていくわけです。

■ものづくりだってイノベーションがなければ駄目

当社は、自社で開発したパッケージソフトウェアを世界で販売しています。われわれの作った製品が、さまざまな企業のコンピュータシステムのオートメーション化をお手伝いしているわけです。

これが進めば、人間はもっと生産的な仕事ができるのでハッピーになれるだろうと。そして、一度オートメーション化されると元に戻れなくなるので、皆さん、ずーっとうちの製品やサービスをお使いになる。それが空気とか水とか、インフラみたいにあって当たり前になります。そういう形で、うちも世の中の役に立っていると自負しています。

われわれのソフトは、特注品をオーダーいただいているわけではなくて、自分たちがいいと信じているものをつくらせて、「これどうだ」ってお客さんのところに売りに行っているわけです（笑）。

うちも、ものづくりをやっているわけですが、気をつけたいのは、ものをつくるという必ず飽和するでしょう。つくりすぎると安くなります。家電とか自動車なんかいい例ですよ。そこで「付加価値」とか「差別化」なんて言い始めるわけです。でも、この付加価値とか差別化という言葉も生き残り策みたいな印象で、最近は嫌いになってきました。飽和しないものをつくるためにも、今までの延長線上じゃなくて、ものづくりにはイノベーションがあって新しいものを生み出す力がないと駄目ですね。

私たちだって、自分たちでつくったものを、ぴかぴかに磨いて、いい製品にして、それがデファクト（市場の実勢によって事実上の標準とみなされるようになった規格・製品）になって……という状況にあこがれています。そして、いいものを持っていれば、当然世界にも出て行きたくなります。

■寄らば大樹型の人間にイノベーションは起こせない

我が社の行動指針の一番目に、こう掲げてあります。



＜私たちは、他社とは異なるユニークな存在であることにこだわり、BSPグループならではの独創性のある製品やサービスを提供します＞

会社がユニークな存在であるためにはそのための人材が必要です。私は採用のために年間1000人ほどの学生と面接していますが、残念ながらなかなかそういう学生は少ない。IT業界というのはよその業界より年齢が若いのでイノベーションが起こりやすいんだと思います。それなのに、親の影響がどうか知りませんが「御社の業績がいいので」とか「安定しているから」というような理由で来る学生が多い。寄らば大樹型の人間がユニークで新しいものを生み出せるとは思えませんね。逆に、少々とんがっていて、「自分が活躍できる会社だから」とか、「この会社でこんなことにチャレンジしてみたい」と大口をたたくような人にこそ期待したくなります。

【PROFILE】

たけふじ ひろき 1961（昭和36）年生まれ。長崎県出身。1984年3月、日本大学生産工学部数理工学科卒業。同年4月ソフトウェアエージ（現ビーコンIT）に入社。1994年にソフトウェアエージよりBSPが分社独立したのを機に移籍し、以降、主にユーザーサポート業務を担当。2000年にはニューヨークに赴任、同社COO、CEOを歴任後、2004年に帰国、BSPの代表取締役社長に就任し現在に至る。2006年にはJASDAQに上場。数理工学科で同期生だった夫人、高校生の長男との3人家族。趣味はワイン、ゴルフ、自動車。



【取材後記】

私の話など皆さんにはむしろマイナスでは？ 終始、そう気遣っていたがインタビューでした。確かに優等生然としたお話はありましたが、そこにむしろ興味深いものがありました。たとえば協調性について。協調性は大事だと思うが、協調性があるということは妥協点が高いということ。そう考えると、協調性があることも善し悪し。で、ご本人は？ 「私は協調性がありません」と。もちろんこれは仕事上のこと。そのお人柄は、入社したての社員からも「社長、飲みに行きましょうよ」とお誘いがかかるほど。……想像つきますよね。

日本大学による表彰学生

総長賞

建築工学科 4年

村上 亮子 (むらかみ りょうこ)

優等賞 (29名)

機械工学科 4年生 白石 郁美
〃 4年生 市東 竜太郎
〃 4年生 井上 真生
〃 4年生 吉田 なつみ
電気電子工学科 4年生 城山 裕希
〃 4年生 鶴見 智成
〃 4年生 富樫 健二
土木工学科 4年生 兵藤 龍之介
〃 4年生 白 陽
〃 4年生 橋 隼人機

建築工学科 4年生 伊藤 有美
〃 4年生 佐藤 愛
〃 4年生 秋山 三貴
〃 4年生 小林 大祐
応用分子化学科 4年生 海和 春香
〃 4年生 梅澤 昌弘
〃 4年生 鈴木 翔
〃 4年生 大森 真乗
マネジメント工学科 4年生 本間 雅都
〃 4年生 片山 彩夏
〃 4年生 田 貴文

数理情報工学科 4年生 永島 侃
〃 4年生 西間木 淳
〃 4年生 池田 英彬
環境安全工学科 4年生 前田 拓海
〃 4年生 阿部 竜也
〃 4年生 酒井 優
創生デザイン学科 4年生 永井 美穂
〃 4年生 熊谷 正徳

生産工学部による表彰学生

学部長賞

体育部門 (3名)

応用分子化学科

4年生

越川虎士

体育団体連合会の「日本大学キックボクシング部」に所属。
3年生時に「全日本学生キックボクシング選手権大会」で団体
3位へと導いた。4年生時の平成24年11月に開催された「全
日本キックボクシング選手権チャンピオン決定戦(ライト級)」
でチャンピオンになる。

弓道部

機械工学科

4年生

武田優樹

平成23年度第43回関東学生弓道選手権大会決勝(男子個
人の部)第6位

応用分子化学科

4年生

佐藤幸宙

平成21年度第43回関東理工科大学弓道定期戦大会男子個
人戦優勝

精励賞

学術・文化部門 (15名)

機械工学専攻 M2 網野 徹

2012年3月に本学部で開催された日本機械学
会関東支部第18期総会講演会において、「FRP
製マイクロEVの設計及び製作」という題目で
講演発表を行い、発表内容の新規性と講演態度
が評価され、若手優秀講演賞(人材育成に貢献
する目的で関東支部総会講演会において優れた
講演を行った26歳以下の若手研究者に贈られ
る賞)を受賞した。(対象者147名のうち7名
が受賞)

機械工学専攻 M2 河添由馬

平成23年5月に本学部で開催された日本設計
工学会平成23年度春季研究発表会において、「
グリーンコンポジットの耐候性曲げ強度の評
価」という題目で発表を行い、その研究成果が
評価され、学生優秀発表賞(設計工学分野にお
ける学術研究の成果、及び将来の設計工学分
野を担うべき学生の研究発表を奨励する目的と
する賞)を受賞した。(応募者数30名受賞者3名)

機械工学専攻 M2 鈴木崇司

2011年度日本機械学会関東支部関東学生
会(会員校47校運営委員学生96名からなり1
名の委員長と8名のブロック長を置く)にお
いて委員長を務め、日本機械学会関東支部学
生奨励賞(1名のみの受賞)を受賞した。

電気電子工学専攻 M2 鍛冶谷智也

平成24年度(第30回)電気設備学会全国
大会において、「LEDを用いた電飾看板発光
面の主観評価について」という題目で研究発
表を行い、電気設備学会全国大会発表奨励賞
(全国大会の一般講演において発表並びに研究
の内容が優秀であると認められた35歳以下
の新進の研究者に対し贈られる)を受賞した。
(232件の講演から20件が受賞)

応用分子化学専攻 M2 大矢浩平

平成24年9月開催の化学工学会第44回秋季
大会における基礎物性部会主催シンポジウム
において、「トラップグリースモデル物質に対
する水素溶解度測定とAE型混合則を用いた
3次型状態方程式による相関」という講演発
表を行い、学生賞優秀賞を受賞した。(口頭発
表35件のうち12件が学生発表でそのうち1
件が最優秀学生講演賞、3名が優秀学生講演
賞)

また、この他にも平成23年6月開催の分離
技術会年会におけるポスターセッション「ジ
メチルエーテルの超高压液密度測定と圧力容
器内のクオリティ計算」で学生賞を受賞し
た。(応募者数100名のうち受賞者数13名)

応用分子化学専攻 M2 竹内 基

平成23年6月開催の分離技術会年会2011
におけるポスターセッション「微小氷・炭酸
ガス系からの炭酸ガスハイドレートの低温・
低圧合成」で奨励賞(東洋エンジニアリング賞)
を受賞した。(応募者数100名のうち受賞者数
5名で、法人会員5社がそれぞれ学生発表の中
から1名ずつ注目すべき研究を選定する賞)

応用分子化学専攻 M2 三國武尊

学術誌「分析化学」に論文「ガスクロマトグラ
フィーによる酸素の選択的検出を目的とした
対向同軸電極を備えたシースフロー型原子発
光検出器の試作」を投稿し、掲載された。この
論文内容について発表した日本分析化学会
第61年会(2012年9月開催)において「若
手講演ポスター賞(学生及び30歳以下の若
手研究者を対象とした優秀な発表者に贈られ
る)」を受賞した。(対象発表者数182件のう
ち受賞者18件)

応用分子化学専攻 M2 諸崎友人

平成23年度に開催された第38回有機典型元
素化学討論会において、「P=C=S骨格を
有するヘテロクムレンを配位子とした銀(I)
錯体の合成」と題した発表が優秀ポスター賞
(対象85件のうち受賞11件)を受賞した。
平成24年度の第39回においても「新規P(V)
=C=S(VI)ヘテロクムレンの合成と構造
および反応性」と題した発表が優秀講演賞(対
象50(内学生29件)のうち受賞5件)を受
賞した。

建築工学専攻 M2 岡田 昂

●2011年度日本建築学会設計競技「時を編む
建築」四国支部入選(全国応募数391作品:
四国支部応募数11作品、受賞3作品)
作品タイトル「現在に生きる過去、過去に生き
る現在」
●UIA2011東京大会 論文・建築デザイ
ン発表 口頭発表採択/作品タイトル「The
Town Plays Melody of Water」
●UIA2011東京大会 論文・建築デザイン
発表 ポスター発表採択/作品タイトル「SLICE
and SHIFT to GET BACK OUR SKY」

建築工学専攻 M2 岡野由佳

●2011年度日本建築学会設計競技「時を編む
建築」四国支部入選(全国応募数391作品:
四国支部応募数11作品、受賞3作品)／作品
タイトル「現在に生きる過去、過去に生きる現在」

建築工学専攻 M2 金丸悠紀子

●2011年度日本建築学会設計競技「時を編む
建築」関東支部入選(コンセプト「関《いき》で
編まれる「まち」と「まち」)

建築工学専攻 M2 田林 映

●日本建築学会関東支部第13回提案競技「美
しくまちをつくる、むらをつくる」(平成23年
11月)優秀賞(グループ作品「人をもてなし、時
をしつらえ、礼をふるまう」)

建築工学専攻 M2 千葉勝仁

●2011年度日本建築学会設計競技「時を編む
建築」四国支部入選(全国応募数391作品:
四国支部応募数11作品、受賞3作品)／作品
タイトル「現在に生きる過去、過去に生きる現在」
●第43回毎日DASデザイン賞 建築部門
入選/作品タイトル「きっかけやま」

建築工学専攻 M2 手島 優

●(社)埼玉県建築設計監理協会主催第11回
卒業設計コンクール展優秀賞(2位相当)(応
募数28作品、受賞数5作品)／作品タイトル「隣
のとなりも、「トナリ」」
●2011年度日本建築学会設計競技「時を編む
建築」四国支部入選(全国応募数391作品:
四国支部応募数11作品、受賞3作品)／作品
タイトル「現在に生きる過去、過去に生きる現在」

体育部門 (12名)

バスケットボール部(8名)

土木工学科 4年生 駒形亮二

関東理工科大学バスケットボール連盟(加盟28校)
2010年理工系秋季トーナメント大会優勝
2011年理工系春季トーナメント大会優勝
2011年理工系リーグ戦大会準優勝

建築工学科 4年生 向後拓也

関東理工科大学バスケットボール連盟(加盟28校)
2010年理工系秋季トーナメント大会優勝
2011年理工系春季トーナメント大会優勝
2011年理工系リーグ戦大会準優勝

マネジメント工学科 4年生 柴崎貴之

関東理工科大学バスケットボール連盟(加盟28校)
2010年理工系秋季トーナメント大会優勝
2011年理工系春季トーナメント大会優勝
2011年理工系リーグ戦大会準優勝

マネジメント工学科 4年生 中山真登

関東理工科大学バスケットボール連盟(加盟28校)
2010年理工系秋季トーナメント大会優勝
2011年理工系春季トーナメント大会優勝
2011年理工系リーグ戦大会準優勝

マネジメント工学科 4年生 渡辺恭平

関東理工科大学バスケットボール連盟(加盟28校)
2010年理工系秋季トーナメント大会優勝
2011年理工系春季トーナメント大会優勝
2011年理工系リーグ戦大会準優勝

数理情報工学科 4年生 太田啓太

関東理工科大学バスケットボール連盟(加盟28校)
2010年理工系秋季トーナメント大会優勝
2011年理工系春季トーナメント大会優勝
2011年理工系リーグ戦大会準優勝

数理情報工学科 4年生 屋方曜祐

関東理工科大学バスケットボール連盟(加盟28校)
2010年理工系秋季トーナメント大会優勝
2011年理工系春季トーナメント大会優勝
2011年理工系リーグ戦大会準優勝

環境安全工学科 4年生 前田拓海

関東理工科大学バスケットボール連盟(加盟28校)
2010年理工系秋季トーナメント大会優勝
2011年理工系春季トーナメント大会優勝
2011年理工系リーグ戦大会準優勝

バレーボール部(1名)

機械工学科 4年生 丸山 翔司

平成20年度日本大学体育大会バレーボール競
技会優勝

卓球部(2名)

電気電子工学科 4年生 加藤一貴

平成21年度日本大学体育大会卓球競技会団体優勝
平成24年度日本大学体育大会卓球競技会団体優勝

建築工学科 4年生 渡辺陽介

平成24年度日本大学体育大会卓球競技会団体優勝

陸上競技部(1名)

マネジメント工学科 4年生 割田雄磨

平成22年度日本大学体育大会陸上競技会男子
1500メートル優勝
平成24年度日本大学体育大会陸上競技会男子
1500メートル優勝

第5回 風力発電コンペ

第5回風力発電コンペ WINCOM2012 は平成 24 年
11 月 4 日 (日) に 31 チームが参加し開催されました。

《発電量部門》
【高校の部】

最優秀賞：システム名称「INS 02」山形県立山形工業高等学校

指導教員：逸見 健太、代表者：田中 彩夏

優秀賞：システム名称「コン技君」千葉工業高等学校

指導教員：片岡 利男、代表者：田中 達也

デザイン賞：システム名称「Brand New Wind 2012」

栃木県足利工業大学付属高等学校

指導教員：近藤 隆重、西牧 宏之、代表者：中島 一仁

アイデア賞：システム名称「エレクトリックショック Ver.1.25」

千葉県立国府台高等学校

指導教員：米山 知諭記、代表者：峰川 万葉

アイデア賞：システム名称「ムーランプラン」佐野日本大学高等学校

指導教員：宇津木 敏人、代表者：富岡 祐樹

WINCOM2012

日本風力エネルギー学会賞

システム名称「DENKEN-04」

千葉県立幕張総合高等学校

指導教員：阿部 肇、代表者：大木 優拓

【オープン参加】

優秀賞：システム名称「バラボ君」

日本大学生産工学部機械工学科

代表者：田中 成弥

デザイン賞：システム名称「ヤマダ A」

日本大学生産工学部機械工学科

代表者：加藤 弘樹

《エネルギー利用部門》

優秀賞：システム名称「蜂鳥」千葉工業大学 CIT ものづくり

代表者：江口 逸実

平成 25 年度は、11 月に第 6 回 WINCOM2013 開催を計画してお
ります。競技の詳細は決定しましたら学部 HP で発表いたします。

キャンパスガイド表紙 デザインコンペ

生産工学部キャンパスガイド表紙デザインコンペが 11 月から 1 月
の間に開催されました。応募作品は 39 号館 1 階に 1 月 16 日 (水)
から 1 月末まで展示され、1 月 31 日 (木) に表彰式が行われました。

審査結果は 43 作品の中から最優秀賞に創生デザイン学科 3 年の阿天
坊 巧君の作品が選出さ
れ、2013 年度のキャン
パスガイドの表紙とし
て採用されました。また
入賞者 10 名には校友会
から副賞として賞金が贈
られました。



表彰式の様子

キャンパスガイド表紙 (2013 年度版) デザインコンペ開催

入賞者

最優秀賞

作品名：SAKURA

制作者：阿天坊 巧 (創生デザイン学科 3 年)

優秀賞

作品名：大学はキャンパスだ！

制作者：高嶋 謙太 (創生デザイン学科 3 年)

佳作

作品名：ぬくもりキャンパス

制作者：児玉 嵩史 (建築工学科 2 年)

佳作

作品名：創造の光

制作者：和久 卓磨 (創生デザイン学科 2 年)

佳作

作品名：はねる。

制作者：進藤 篤 (創生デザイン学科 3 年)

入賞

制作者：鶴見 亮太 (建築工学科 2 年)

入賞

制作者：今村 昂広 (建築工学科 3 年)

入賞

制作者：畑 真由香 (建築工学科 4 年)

入賞

制作者：真野 浩太 (創生デザイン学科 3 年)

入賞

制作者：高橋 敦史 (建築工学科 4 年)

TOPICS

創生デザイン学科

川岸梅和教授を代表とする川岸研究室チーム (創生デザイ
ン学科 3 年 阿天坊巧・市毛賢・稲葉隼・今井廉・落合祐希・
石井かえで + 大学院建築工学専攻 D.2 年 野田りさ、M.1 年
田村一晃・高橋亮裕 + 北野幸樹准教授) は、旭市いいおか
復興観光まちづくりコンペ (主催：いいおか津波復興プロジェ
クト) において佳作を受賞した。

「Community Supported IIOKA ～共に生きる・活きる
暮らし～」を作品のタイトルとし、2011 年 3 月 11 日に起
きた東日本大震災の被災地である千葉県旭市飯岡の復興計画
案を提案している。計画のなかで、豊かな海との共生を目指

し、防災・減災の観点によるフローティング (浮体) ユニッ
ト等工学技術的手法とともに「コミュニティづくり」を基盤に、
居住者参加型 (コーポラティブ方式) の「まちづくり」と「住
まいづくり」を柱としたハードとソフトの同時進行形の提案
を行っている。 (平成 25 年 3 月 3 日)



平成 25 年度行事予定

行 事		2～4 年次：津田沼校舎	1 年次：実籾校舎	大学院	備 考
開 校 式		4月1日(月) [津田沼校舎] 4月1日(月)			
ガ イ ダ ン ス		4月2日(火)～6日(土) ※応化2・3年 4/1(月) から ※教職課程 4/3(水)・5日(金)	4月1日(月)～6日(土)	4月1日(月)	4/2にプレースメントテスト(1年生)・学力テスト(2年次生) 4/6にTOEIC Bridge(1年次生)を実施
入 学 式			4月8日(月)		日本武道館
前 期 授 業 開 始		4月9日(火)			4/30(火)、5/1(火)、2(水)休校
定 期 健 康 診 断		4月9日(火)～12日(金) 女子学生：4月11日(木)・12日(金)			
ス ポ ー ツ 大 会		5月18日(土)			
大学院入学試験(第1期)・学内選考				7月6日(土)	
オ ー プ ン キ ャ ン パ ス		7月14日(日)			
前 期 授 業 終 了		7月29日(月)			学部：7/13、20、27は授業予定
補 講		土曜日適宜実施			
夏 季 休 業		7月30(火)～9月19日(木)※応用分子化学科1・2・3年のみ9/18(水)まで	7月30日(火)～9月19日(木)		
オ ー プ ン キ ャ ン パ ス		8月3日(土)・4日(日)			
A O 入 学 試 験		9月14日(土)・15日(日)			
後 期 ガ イ ダ ン ス		9月20日(金)※応用分子化学科1・2・3年のみ9/19(木)・20(金)			9月20日(金)
後 期 授 業 開 始		9月23日(月・祝)			
卒 業 式・学位授与式(9月)		9月26日(木)		9月26日(木)	
父 母 懇 談 会		9月28日(土) 津田沼校舎			
創 立 記 念 日		10月4日(金)			休 校
編入学試験(2年次・3年次)		10月12日(土)			
外国人留学生入学試験		10月12日(土)			10月12日(土)
帰国生入学試験		10月12日(土)			
校友子女入学試験		10月12日(土)			
父 母 懇 談 会		10月26日(土) 地方別実施			
学 部 祭 (桜 泉 祭)		11月3日(日)・4日(月・祝)			11/ (2) 準備日・ 11/ (5) 片付日
入試説明会・オープンラボ		11月16日(土)			
指定校制推薦入学試験		11月16日(土)			
提携校推薦入学試験		11月16日(土)			
保健体育審議会推薦入学試験		11月16日(土)			
トップアスリート推薦入学試験		11月16日(土)			
付属高等学校等推薦入学試験(B方式)		11月16日(土)			
博士論文提出期日				11月22日(金)	
学 術 講 演 会		12月7日(土)			
公募制推薦入学試験		12月14日(土)			
付属高等学校等推薦入学試験(A方式)		12月14日(土)			
冬 季 休 業		12月24日(火)～1月9日(木)			12月24日(火)～1月9日(木)
後 期 授 業 終 了		2月3日(月)			学部：12/21、1/11、29、30は 授業予定日
補 講		土曜日適宜実施			
大学入試センター試験(C方式)		1月18日(土)・19日(日)			
修士論文概要(初稿)提出期日				1月23日(木)	
一般入学試験	N 1 方 式	2月1日(土)			
	A 1 方 式	2月2日(日)			
	A 2 方 式	2月9日(日)			
	A 3 方 式	2月19日(水)			
修 士 論 文 提 出 期 日				2月24日(月)	
大 学 院 入 学 試 験 (第2期)				3月1日(土)	
転 科 試 験 (2 年 次)		3月3日(月)			
卒 業 式・学位授与式		3月25日(火)		3月25日(火)	日本武道館

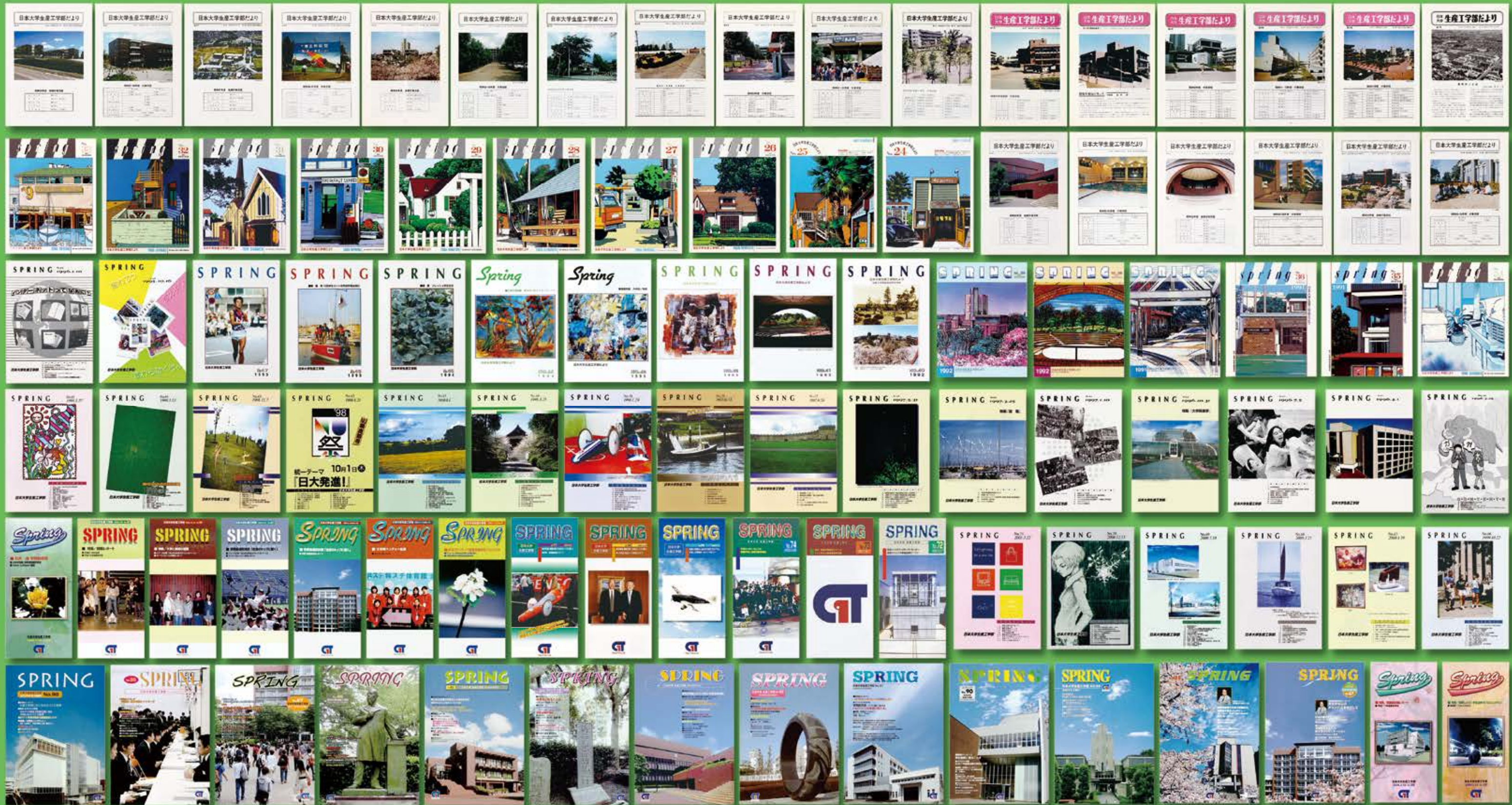
個人情報の取扱い告知文

入学手続時及び在学中に収集する学生本人及び保証人の氏名、住所、生年月日及びその他の個人情報は、学籍・成績
管理、教育、学生生活支援、学費の案内、図書館利用、就職支援等及びこれらの業務に付随する学生及び保証人への連
絡・通知・掲示等、本大学の教育事業に必要な範囲で利用します。

また、これらの業務の一部を業者に委託する場合があります。この場合、当該業務の委託を受けた業者は、上記利用目
的の達成に必要な範囲を超えて個人情報を利用することはありません。

なお、本大学では、学生への教育・指導をより適切に行うため、保証人に対して学生の学業成績及び出席状況等の開示
並びに履修状況等についての相談を行う場合があります。

(問合せ先) 生産工学部教務課・学生課



「SPRING」の前身「日本大学生産工学部だより」第1号が発行されたのは、日本大学生産工学部が独立学部になって10年目の1976年(昭和51年)1月25日付でした。体裁はB5サイズで6頁、まだカラー印刷ではありませんでした。その後、1987年(昭和62年)に誌名募集が行われ、318通の応募の中から庶務課の田中稔氏の「SPRING」が採用され、翌年の1月25日号からこの名を冠した「SPRING」が発行されました。

これまで判型や紙質など数回の誌面改編が行われました。現在のA4サイズ、24頁立てになったのは、2006年(平成18年)8月発行の87号からです。ちなみに、これまでに最も多いページは2000年(平成12年)12月発行の70号の32ページでした。(B5判、表紙のみカラー) また、創刊よりほとんどが年2回の発行ですが、1988年(昭和63年)から1992年(平成4年)の5年間は年3回発行されました。(表紙写真は、右上から左に、下へと新しく配置してあります。)

スプリング
SPRING No.100
 (日本大学生産工学部だより)
 平成25年3月19日発行
 編集・発行 日本大学生産工学部 広報委員会

本誌に関する照会その他は下記へお願いします。
 〒275-8575 千葉県習志野市泉町1-2-1 日本大学生産工学部 庶務課
 電話 047-474-2201 FAX 047-479-2432
 E-mail : cit.info.shomu@nihon-u.ac.jp
 www.cit.nihon-u.ac.jp

SPRING

日本大学生産工学部
 2013年3月19日発行
 No.100

- 学部長メッセージ 卒業生へ贈るお祝いメッセージ
- 100号記念特集 特別寄稿／未来からの挑戦状
- 2012年の就職状況と2013年の展望
- 就職活動体験記
- 学科ニュース

- 連載／卒業生インタビュー
株式会社BSP 代表取締役社長 竹藤 浩樹さん
- 平成24年度表彰学生
- CAMPUS NEWS
- 平成25年度行事予定

